

Book Review



マイクロスコープと NiTi ロータリーファイルによる GP の Advanced Endodontics

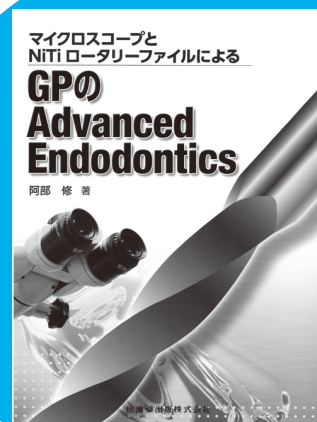
阿部 修 著



Reviewer

下地 勲 Isao Shimoji
(東京都・しもじ歯科クリニック)

A4 判変, 104 頁
オールカラー
定価 (本体 7,000 円+税)
医歯薬出版刊



阿部 修先生が日常臨床へのマイクロスコープ導入の必要性と NiTi ロータリーファイルをいかに安全かつ効果的に活用するかを解説した、よりレベルの高い歯内療法を目指す GP のための本を出版された。本書は、2012 年に出版されて高い評価を受けた『Evidence & Technique NiTi ロータリーファイルを実践的に使う実践歯内療法』の Advanced 編で、その内容が歯界展望に連載されていた頃から書籍としての発行が強く待ち望まれていた。

筆者は最近まで上顎大臼歯の頬側近心根や下顎大臼歯の近心根など狭窄した根管への対応が苦手で、それが予定に入っている日は朝から憂鬱な気持ちになるのが常であった。ところが、本書との出会いを契機に「今日は大臼歯の根管治療はないの？」とスタッフに尋ねるほど、逆に楽しみになってきた。本書で解説された理論背景と具体的に示された術式をもとに忠実に実行してみたところ、いままで思うように果たせなかった大臼歯狭窄根管の難しく時間のかかる処置が確実に、しかも速く楽に行えるようになってきたからである。

一般的に治療の確実さと速さは相反する要素であるが、この方法においては両者を同時に得られる点が画期的である。これほどの変革は筆者の 40 年以上におよぶ長い臨床経験のなかでも珍しく、年齢的にも日々の臨床に疲れ

て向上心を失いかけてきた時期だったこともあり、新鮮な明日への活力をいただいた。筆者の場合、自家歯牙移植のケースが多く、移植歯に智歯が多いことから根管形態が複雑で歯内療法の難しさに悩まされているが、その対応にも活路がみえてきた思いである。

本書は第 1 編「GP のためのマイクロスコープを使用した歯内療法」において、マイクロスコープなしでは成功しなかったと思われる興味深い難症例をまず数多く提示して強い興味を抱かせておく。それから治らない原因である(肉眼では見えない)エンド三角、マイクロクラック、フィン部の感染、根尖に近い根管壁の軟化象牙質等の発見、診査、処置の実際を多くの連続性のある拡大写真で解説する構成になっている。説得力があり、思わず一気に読んでしまう。また、露髄や穿孔ケースに対して、最近話題の MTA を適用する最新のノウハウや破折ファイルの除去法、通常の歯内療法で治癒しない場合の外科的歯内療法についても記載されており、大変参考になる。

そして、後半の第 2 編「NiTi ロータリーファイルを応用した GP の歯内療法」において、ロータリーファイルの使用根拠、安全な使用上の留意点などが詳細かつ実践的に述べられている。

第 2 編のなかでの圧巻は、開発者 Webber らによる「Wave one ファイ

ル選択基準」を改良され、著者ご自身が到達された「GP が安全に応用するためのファイル選択基準」を簡潔明瞭に、多くの写真を添えて提示されている点である。開発者が発表した方法をそのまま適用した場合、おそらく安全で円滑な根管拡大は難しいと思われるいくつかの問題点が阿部先生により安全な方向に modified され、堅実な術式になっている点は意義が大きい。

ただし、すべての症例でシングルファイルシステムである Wave one を使用して楽に根管拡大を行えると過信するのではなく、症例に応じて従来のいろいろな手段を組み合わせる必要性を述べられ、具体的にはより湾曲度の強いケースではマルチファイルである Protaper NEXT を現時点では選択すると述べられており、慎重な症例選択の重要性を強調されている。

さらには本書の理論的構成をなす多くの海外文献渉猟が緻密かつ包括的に行われており、客観性・科学性の高さを感じる。

Wave one などシングルファイルシステムは現在さらに改良が進みつつある。歯内療法が辛い、難しい、時間のかかる治療から、楽な、安全でより精度が得られる治療に変わりつつある現在、これを導入するために必要な理論と手技を身につけておくための、必読の書である。